

戦争が生み出す「恋」の歌



金子 淳

日本人女性が赴任先のスーダ
ンで、現地の若者と恋に落ちた。
だが突然、戦争が起きる。恋人
は何者かに拘束され、行方不明
になった。戦火を逃れて日本へ戻った女性は恋人を
忘れようと努め、日常生活へと戻っていく――。

エジプト・カイロで難民申請をしたスーダン人
ミュージシャン、サラハディーンさん(26)は、こ
んなストーリーを下敷きにしたソロアルバムを制作
している。念頭にあるのは、昨年4月に始まった母
国の内戦だ。「日本の音楽や文化が好きで、日本を
題材にした新しい音楽を作りたいかった」。戦争でめ
ちゃくちゃになった生活を送る中、自宅から唯一持
ち出すことができたギターの音色に、平和への願ひ
を込める。

サラハディーンさんは6人組バンド「アスワト・
アルメディナ」(街の声)のギタリスト。母国では
名が知れた存在で、2020年のバイ万博で演奏
したこともある。

生活が一変したのは、昨年4月15日のことだ。軍

と準軍事組織「即応支援部隊(RSF)」が戦闘を
始め、治安が一気に悪化した。首都ハルツーム近郊
にあるサラハディーンさんの自宅付近では本格的な
戦闘はなかったが、強盗などの犯罪が相次いだ。4
月下旬、見知らぬ住民の男が言い争いになった相手
をナイフで刺殺する場面にも出くわし、首都を離れ
る決意を固めた。

約300^キ離れた祖母の家に逃れたが、今年1月、
この町でも戦闘が始まるとのうわさが流れた。フェ
イスブックで見つけた密入国業者を頼り、夜中の砂
漠を歩いてエジプトとの国境を抜けた。

いまはカイロに住む姉の家で暮らす。母国の音楽
事務所は略奪に遭い、機材はすべて失った。バンド
のメンバーもバラバラになり、次はいつ会えるのか
も分からない。

バンドは元々、愛や平和をテーマにした音楽を制
作していた。いまはその重みをいっそう強く実感し
ている。「戦争の影響で自分の音楽はより感情的に
なったと思う」。ソロアルバムのタイトルは「リリー
(ユリ)」。日本の花言葉で「純潔」を意味すること
が由来だ。戦争が引き裂く恋をメロディーに乗せ、
平和のメッセージを届けたいと願っている。